

第3章 サッカージュニアチームにおける 保護者に関する消費動向調査

アンケート調査からの要約

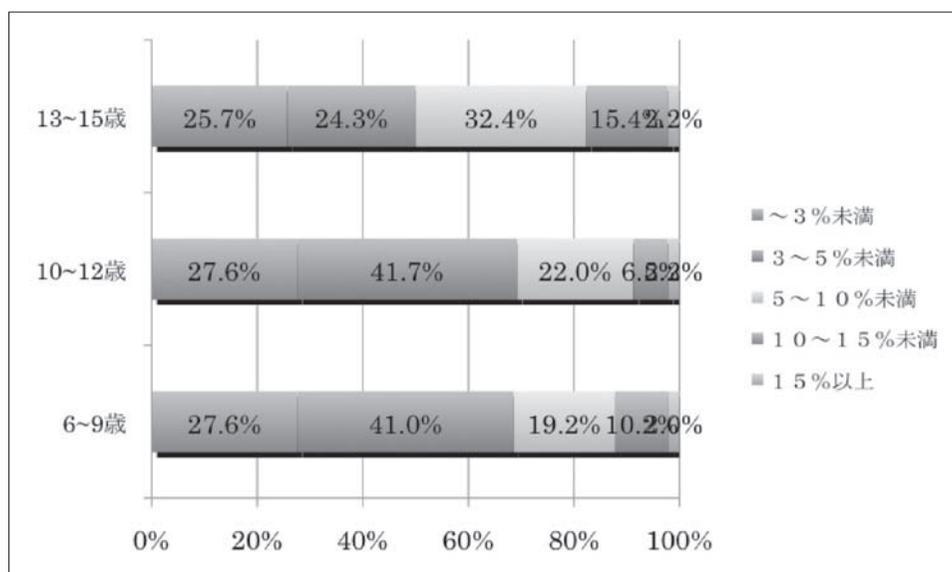
本調査では、Jリーグの下部組織（スクール）に通う子供の保護者に関する消費動向調査のクロス集計からみえてくる現状を説明する。様々な項目より3つの視点からクロス集計をした。

有効変数として、1) 各学年（6歳-9歳：小学校低学年）、（10歳-12歳小学校高学年）、（13歳-15歳：中学生）の3項目に年齢を割り当てた。6歳-12歳までは、スクールであり特別に選抜された子どもたちではない。ただし、13歳-15歳の子どもたちは、選抜された子どもたちであり、プロ・サッカー選手への第一歩を踏み出した子どもたちである。その意味では、小学生とは保護者の意識等も変化していると考えられる。次に2) Jクラブの各地域差を考察するため、関東のクラブとそれ以外のクラブとに再割り当てを行った。3) 最後に保護者の最終学歴を変数としたクロス集計を行った。ただし、最終学歴と各項目との関係には、大きな相関は見られなかった。年齢割り当てのデータに関しては、巻末資料として添付しておく。

まず、1) 各学年（6歳-9歳：小学校低学年）、（10歳-12歳小学校高学年）、（13歳-15歳：中学生）の年齢を割り当てたクロス調査から考察を試みた。学費以外の学習塾などの家計支出は、6歳-9歳では5%以上でみると31.4%であり、10歳-12歳は30.7%、13歳-15歳では50%であった。つまり、中学生入学からサッカー以外の学習面に関する支出も増えていることが明らかである。すなわち保護者は、選抜されたからといってサッカー活動のみに方向性を決めるのではなく、学習面にも目を向けていることを伺わせる。これはプロ・サッカー選手の引退の平均年齢が26歳前後であることを前提とすると、必ず一般社会にトランジションをしなければならない。そうであるならば、必ず勉強も並行して行っておかなければならないことを、保護者も考えていることを伺わせる。

学費以外の学習塾などの家計支出と年齢再割り当てのクロス表

	6～9 歳		10～12 歳		13～15 歳	
	%	(n)	%	(n)	%	(n)
～3%未満	27.6%	95	27.6%	139	25.7%	35
3～5%未満	41.0%	141	41.7%	210	24.3%	33
5～10%未満	19.2%	66	22.0%	111	32.4%	44
10～15%未満	10.2%	35	6.5%	33	15.4%	21
15%以上	2.0%	7	2.2%	11	2.2%	3
	100.0%	344	100.0%	504	100.0%	136

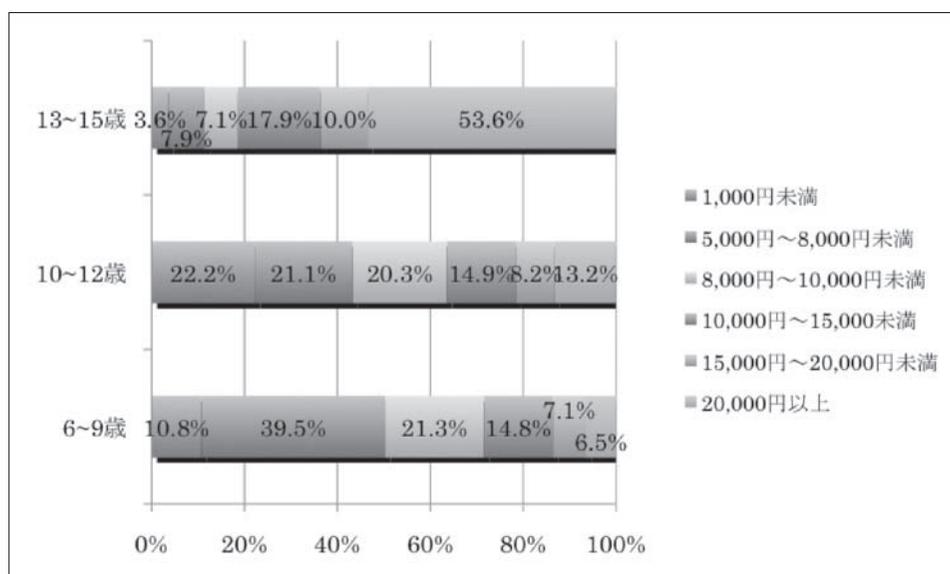


サッカー参加に関わる月額支出を15,000円以上で考えると6歳-9歳では13.6%以上であり、10歳-12歳では21.4%、13歳-15歳では63.6%であった。この結果から、年齢が上がるにつれて月額にかかる支出が高いことが明らかである。この結果は、学年があがることにより、より高度なレベルでかつ練習時間等が増加することを考えると当然の帰結となる。しかしその一方で、先の学習塾への支出もあることから保護者の家計負担はかなり高いものになることが推測される。仮にそうだとするならば、近年いわれている経済格差による子どもの教育関連への影響が問題視されているが、同様にスポーツ関連にも影響を及ぼしている

可能性があると思われる。

サッカー参加にかかる月額支出と年齢再割り当てのクロス表

	6～9 歳		10～12 歳		13～15 歳	
	%	(n)	%	(n)	%	(n)
1,000 円未満	10.8%	38	22.2%	116	3.6%	5
5,000 円～8,000 円未満	39.5%	139	21.1%	110	7.9%	11
8,000 円～10,000 円未満	21.3%	75	20.3%	106	7.1%	10
10,000 円～15,000 円未満	14.8%	52	14.9%	78	17.9%	25
15,000 円～20,000 円未満	7.1%	25	8.2%	43	10.0%	14
20,000 円以上	6.5%	23	13.2%	69	53.6%	75
	100.0%	352	100.0%	522	100.0%	140

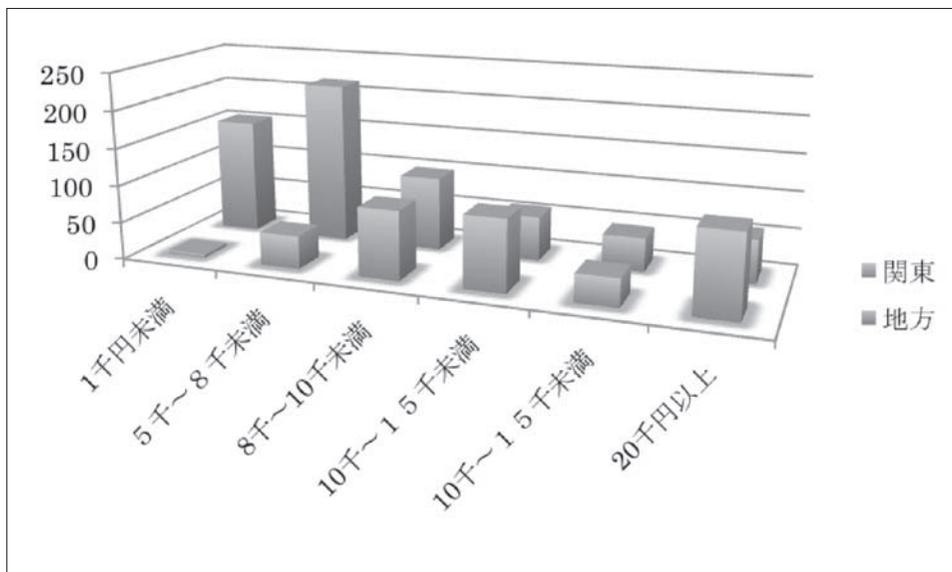


以下に、地域別再割り当てと各項目のなかで相関がありそうな3項目について簡単な考察を加えていく。第一に、サッカー参加にかかる月額支出には、関東とそれ以外の地方とに大きな差が見受けられる。地方のクラブでは1ヶ月の支出額8,000円未満が57.7%と半数以上を占めるのに対し、関東のクラブでは12.6%

あった。この質問項目では、交通費を外した額での回答を求めている。このことを考慮すると、関東のクラブの子どもたちは、1つのクラブだけではなく、複数のクラブなどを掛け持ちして参加している可能性が考えられる。

サッカー参加にかかる月額支出と地域別再割り当てのクロス表

	1千円 未満	5千～ 8千未満	8千～ 10千未満	10千～ 15千未満	10千～ 15千未満	20千円 以上	合 計
	% (N)	% (N)	% (N)	% (N)	% (N)	% (N)	% (N)
関東	1.1% 4	11.5% 44	24.1% 92	25.1% 96	9.7% 37	28.5% 109	100% 382
地方	24.5% 155	34.2% 216	15.7% 99	9.3% 59	7.1% 45	9.2% 58	100% 632

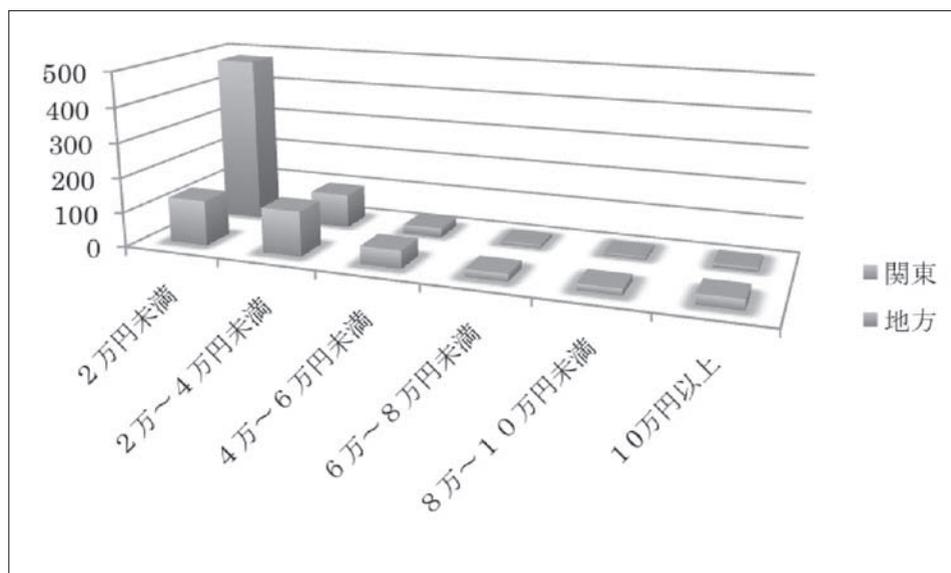


第二にサッカー用具にかかる費用についてであるが、これに関しても地方クラブと比較すると関東地域の子どもたちの方が、多くの費用を用具類に掛けていることが明らかである。年間にかかる費用が2万円未満の子どもたちは、地方クラブでは75.9%であるに対して、関東のクラブの子どもたちは、34.3%であった。すなわち地方では1年間のサッカー用具などに殆ど費用をかけていないことになる。一方で地方クラブでは8万円以上の支出する保護者は3.1%であるのに対し、関東のクラブの子どもたちは12.5%であった。各クラブにおけるスクールの子どもの練習時間は基本的に大きく変わることはない。この状況から地方の保護

者より、関東の保護者の方が子どもにかけている支出が大きい可能性がある。もしくは保護者の年間収入が多い可能性が考えられる。

サッカー用具やユニフォームなどにかかる費用と地域別再割り当てのクロス表

	2万円未満	2万～4万円未満	4万～6万円未満	6万～8万円未満	8万～10万円未満	10万円以上	合計
	% (N)	% (N)	% (N)	% (N)	% (N)	% (N)	% (N)
関東	34.3% 130	34.1% 129	13.5% 51	5.6% 21	4.8% 18	7.7% 29	100% 378
地方	75.9% 481	15.5% 98	4.1% 26	1.4% 9	1.3% 8	1.8% 12	100% 634



最後に、月謝の主な負担者に関しては、別表の通りとなった。関東では99.2%と圧倒的に親が負担者となっている。地方では親が54.5%、母方の祖父母が25.1%、父方の祖父母が6.4%と、負担者が親だけではないことがわかる。このことは前述した保護者の年間収入が高い可能性を改めて示唆するものではないだろうか。また、関東では父方、母方とも、祖父母からの支援なしであることから、核家族化が地方よりも進んでいる背景も推測できる。

月謝の主な負担者と地域別再割り当てのクロス表

	親		祖父母（父方）		祖父母（母方）		おじ・おば		その他		合計	
	%	(N)	%	(N)	%	(N)	%	(N)	%	(N)	%	(N)
関東	99.2%	379	0.3%	1	0.5%	2	0%	0	0%	0	100%	382
地方	54.5%	342	6.4%	41	25.1%	157	11%	70	3%	16	100%	626

